

委嘱初演をした同志社グリークラブの第 110 回定期演奏会のパンフレットに掲載された  
作詞者みなづきみのりさんの曲目解説

▽▽▽▽▽

3つの歌詞は、同志社グリークラブによって歌われる合唱曲になることを想定して書きだしたのですが、当初力み過ぎていたものを信長先生からのアドバイスを頼りに何とか修正を重ね、素晴らしい曲にしているただくに至りました。信長先生の「言葉から音楽を喚起する力の素晴らしさ」に瞠目すること頻り、この作曲家と同時代を呼吸していることの幸せを感じます。

■ 「翼よ、お前の空を翔ける」

自由とは「自分らしさを発揮する機会を保障された状態」と言えるのではないのでしょうか。それは徳育の基礎にするキリスト教精神とともに、声高に叫ぶものではなくアトモスフェアとして同志社に流れているものだと考えます。

■ 「春愁のサーカス」

音楽と人生の奥底から湧き出る哀歓をイメージしました。大地と空を結ぶものとしての音楽、大地に生き空に憧れるものとしての私たち。苦悩、共感、孤独、憧憬、喜び…人生の諸相に深く関わろうとする音楽こそ、同志社グリークラブの伝統に息づく、魂の音楽ではないのでしょうか？その脈打つ歴史と恩人へのオマージュも含め。

■ 「帆を上げよ、高く」

新島が志高く脱国を決意したのが 20 歳、実行したのは 21 歳の時です。大学生がまさしくそのような年代であることを強く意識した歌詞としました。途中に挿入される英語の言葉は、寒梅館（旧学生会館の緞帳）の正面にも刻まれた同志社グリークラブにも馴染み深い新島の言葉の引用です。

△△△△△

男声合唱とピアノのための《帆を上げよ、高く》 委嘱初演  
第 110 回同志社グリークラブ定期演奏会  
2014 年 12 月 7 日（日）京都コンサートホール 大ホール  
作詩／みなづきみのり 作曲／信長貴富  
指揮／伊東恵司 ピアノ／萩原吉樹

次回 4 月 14 日は「帆を上げよ、高く」の練習です

同志社大学を設立した新島襄の志にも思い馳せて曲を理解したいと思います

2018/04/09

情報提供：関@13 期